

## シーボルト・コレクション（文献）の現状

— オランダ・イギリス・フランス —

田邊由太郎

## はじめに

1980年8月18日～21日、コペンハーゲンで開催された第40回 FID 会議終了後、私は特命によりシーボルト・コレクションの現状調査のため、オランダのライデン、ロンドン、パリを訪れた。その際関係機関で得たシーボルト将来の日本文献の現状および関連情報を報告し、ご参考に供したい。

## 1. フランツ・フォン・シーボルト

1823（文政6）年、蘭領東インド総督への希望表明がかなえられ、日本在勤を命じられたシーボルトは、出島のオランダ商館医官として同年8月長崎に着いた。27歳の時である。

出島に着任したシーボルトは、任務のかたわら、日本の医師、通詞たちにオランダ語による博物学、医学の講義を行い、同時に、自らの植物学研究によって念願の日本研究を開始し、翌年には、長崎に鳴滝塾を開設した。

1826（文政9）年、商館長に従い江戸参府旅行を行い、旅先での日本人、日本社会との接触により、多くの研究材料を入手したが、かねて強い関心があった地理、地誌、本草学、日本語、日本史等の文献、日本各地の地図、その他民族研究資料（風俗画、衣・食・住の什器その他）も多数入手した。

1828（文政11）年、所謂シーボルト事件発生、高橋作左衛門景保とともにシーボルトも取調べを受け、翌年春には景保が獄死し、シーボルト自身も秋には判決（御構）を受け、年末、長崎から日本を去った。

（シーボルト事件とは1828年9月、日本から帰国しようとしたシーボルトの乗船が暴風雨のため長崎港外で坐礁し、積荷の中から国外持出しを禁じられていた地図が発見されて罪に問われ、関係した多数の日本人も同罪に問われた事件である。

なお、その際、高橋作左衛門がシーボルトに贈った地図の中に伊能忠敬の日本沿海分間図があつたが、本図は帝國図書館を経て現在国立国会図書館の所蔵に帰しており、昭和55年8月～9月の『日本の地図展』に展示公開されたものであるといわれている）

1858（安政5）年、シーボルトは出島商館を通じ再度の訪日の意向を表明し、幕府はシーボルトの入国禁止を解除した。翌1859年8月、シーボルトは長男アレクサンダーとともに長崎に着いた。

1861（文久元）年、幕府の招きを受け長崎を出航、横浜港に着き、江戸の赤羽接遇所（東麻布1丁目）に入った。参府のため江戸へ出てから35年経っていた。外国奉行の依頼により、医師、書生に諸学を教授した。同年秋、江戸を退き横浜に移り、

1862(文久2)年春には長崎から日本を去った。(文献1)

この第2次滞日の際にも日本研究のための資料収集を続け、第1次滞日時を上回る文献をヨーロッパへ持帰った。

### 2.1.1. オランダ、ライデン市のシーボルト・コレクション

シーボルトが日本から送った諸資料は、何らかの事情で、当初(1830年)ベルギーのアントワープ、ブリュッセル、ガンの各地に分置されたが、オランダ政府はシーボルトにオランダに持帰るよう委任し、同年10月ライデンに搬入されたが、ガンに行ったものは1841年に漸く戻ったという。(文献2)

1831年にオランダ政府はシーボルト・コレクションの国家による購入を決定したが、直ちには実施せず、1837年7月のシーボルトの国王に対する請願をうけ漸く受入評価の委員会を設置し、評価額58,500フルデン(12,000フルデンは前払い)の4年分割払い案を提示、シーボルトの同意により国のものとなることが決定した。シーボルトはその際、自らのコレクションを基礎に、地誌・民族学博物館の設立を要望したが、この要望は直ちには実現せず、当面はシーボルトがライデンに到着して以来陳列公開していた自宅が、引続いて保管公開の場所となった。(文献2)

### 2.1.2. 目録の編さん刊行

1845年、シーボルトは助手ヨハン・ヨゼフ・ホフマン、郭成章の協力を得て、ライデンにあった彼自身の将来日本文献に、当時ハーグの王立博物館にあった、もとの出島商館長ヨハン・コック・プロムホフ、同副館長ファン・オーフェルメール・フィッ

シャーの収集文献を加え、日本図書目録を編さんした。

Catalogus librorum et manuscriptorum japonicorum a Ph. Fr. de Siebold collectorum, annexa enumeratione illorum, qui in Museo Regio Hagano Servantur. Leiden 1845.

[当館請求記号 015.52-S71c]

がこれである。この目録記載文献の部門別(原分類)、収集者別の内訳は以下の通りである。

部門別	シーボルト	プロムホフ	フィッシャー	合計
1 百科辞典類	7	1	4	12
2 歴史・地理	165	6	10	181
3 自然科学	100	0	0	100
4 文法・辞書	39	0	4	43
5 神学・道徳	25	3	17	45
6 詩	22	1	15	38
7 風俗制度	23	0	4	27
8 経 済	33	0	2	35
9 貨 幣	11	2	0	13
10 医学・薬学	14	0	0	14
11 木 版 図	71	18	6	95
合 計	510	31	62	603

なお、目録の一連番号は594で終わっているが、9タイトルの枝番号があり、603タイトルとなる。この中には、さらに重出されたものもあり、プロムホフ、フィッシャーの両コレクションと重複するもの2点がある。

また、1845年に刊行したこの目録に先んじ、1831年にアムステルダムで作成された手書きの目録が、国立民族博物館にあり、1980年8月法政大学大森実教授がこれを写真撮影され、日本に持帰られた由で、その調査結果の発表が待たれる。

### 2.1.3. 国立民族博物館とライデン大学

シーボルトの念願がかない、国立民族博物館 (Rijksmuseum voor Volkenkunde) が設立されるとともに、シーボルト・コレクションは民族学資料と文献資料のすべてが移されたが、その際、学術研究上の見地から、文献資料については、その約3分の2がライデン大学に移され、同大学図書館に収蔵された。すなわち、図譜、図解、雛形、図録、絵画書、画集、木版画等はほぼ全面的に民族博物館に優先的に移され、自然科学、医学・薬学、歴史、地理をはじめ、学術的文献、地図はライデン大学に移された。

### 2.1.4. 合同目録の編さん

1896年、国立民族博物館の委嘱を受け、E・J・ブリルが同館とライデン大学図書館所蔵の日本語文献の合同目録をフランス語で編さんした。両館の所蔵するシーボルト・コレクションはこの中にすべて収載されている。両館では、この冊子目録にシーボルト・コレクションの表示、およびそれぞれの所蔵を明示して閲覧利用に供しているが、とくに大学図書館の目録には両館の所蔵状況が記録されており、利用上便利である。約1,300タイトル収録されている。

Brill, E.J.: Bibliothèque japonaise librairie et imprimerie. Catalogue raisonné des livres et des manuscrits japonais enregistrés de l'université de Leyde. Par le Dr. L. Serrurier directeur du musée national d'ethnographie générale Leyde. 1896.

なお、この目録と1845年シーボルト自身の編さんした目録との異同、大学側と博物館側で重複して所蔵しているとするものの実態等については問題なしとした

いので、詳細な比較検討が必要と考えられる。しかし、ブリルの目録を国立国会図書館では所蔵していないのでこの問題について今回報告できないのは残念である。他日を期したい。

### 2.1.5. 保存の状況

民族博物館所蔵のシーボルト・コレクションは、他の日本文献とともに、日本部の資料室(2階)のガラス戸棚に一括排架されている。革装丁を施したものとオランダ式帙に収納したものとがある。

大学図書館所蔵分は東洋写本部が所管し、同部所管書庫に収納している。革装丁は民族博物館と同様である。ただし、地図については、同館地図部の所管となっている。

両館とも資料の保存状態は極めて良好であり、湿度が低いため虫食いによる損傷は殆んどなく、退色による色彩の変化も日本に比較して少ない。先年、民族博物館所蔵の浮世絵が日本で開かれた展覧会に出品されたことがあり、その保存の良さと評判になった由である。

また、虫食いのない完本を求めて、大学図書館を訪れる日本からの研究者も少なくないとのことである。

### 2.2.1. オランダ国内における他の所蔵機関の所在および新規資料の発見の可能性について

この質問に対する関係者の回答は次の通りであった。

○ ライデン大学 図書館東洋写本部, J・J・ウィットカム氏

「大学図書館、民族博物館以外に当該文献を所蔵する機関があるとは考えられないし、また現在以上の資料が発見される

とも考えられない。ただし、デン・ハーグの国立文書館 (Algemeen Rijksarchief) にはシーボルト文書が保存されているので、この文書の中には未公開あるいは未発見のものがあるかも知れないが」

- 国立民族博物館日本資料副管理者 A・H・クリーガー氏

「2館以外に文献所蔵機関はない。今後もし新規に発見される可能性は最早あるまい」

- ライデン大学日本研究所ブート教授  
「まとまったものが何処かで発見される可能性はもうなかりうが、断片的なものが発見されることがないとは断言できない」

## 2.2.2. 国立文書館のシーボルト関係文書

呉秀三『シーボルト先生 其生涯及功業』以来、相当数のシーボルト関係文書が発掘、採録されているが、未発掘文書もなお残されていると考えられる。今回は日程の制約で調査できなかったが、ハーグの国立文書館所蔵のシーボルト文書については周到な準備の下に、十分な時間をかけ調査する必要があると考えられる。当然、オランダ語、ドイツ語による文書が多い筈であるが。

## 2.2.3. 日本人門弟がシーボルトに提出したオランダ語レポートの行方

シーボルトが第1次の滞日中、出島、長崎で日本人弟子達にオランダ語、医学の講義を行った際、オランダ語でレポートを提出させたが、シーボルトがこのレポートを持帰り、著作に活用した後はベルリンの日本研究所 (Japan Institut) に保管されていた。しかし、第2次大戦後のドイツ占領に

際し、このレポート等も米英軍とソ連軍に分割管理された。米英軍の管理下にあったものは占領終了後返還され、現在はボッフム (Bochum) のルー大学 (Ruhr Universität) に移されており、同大学のフリーゼ博士 (Dr. Friese) がこの文献に明るいとのことである。なお、ソ連軍の管理下にあったものはレニングラードに移されたとの情報がある。(ライデン大学ブート教授談)

(付) シーボルトが弟子達に提出させたレポートの一部は1935年にシーボルト資料展覧会が東京で開催された際ベルリンの日本研究所から借受け、展示会終了後フォトシュタットを作成した。(文献3, 4) この写真版は現在東洋文庫が所蔵している。ベルリンにあった原本が分散されている現在、写真版の果す役割は大きいものと考えられる。

## 3.1. 英国図書館所蔵のシーボルト・コレクション

英国図書館はすぐれた日本文献コレクションを持っていることで著名であるが、その中に2つの重要なコレクションがある。シーボルト・コレクションとアーネストサトウ・コレクションである。これらは何れも参考図書館 (Reference Library) の東洋写本刊本部 (Div. of the oriental manuscripts and printed books) の所管の下にある。(1980年現在、同部は British Museum の建物内にあるが、一部は既に別館に移転しており、近く全面的な同部の移転が予定されている由である。)

このシーボルト・コレクションは、父フランツ・フォン・シーボルトが1866年ミュンヘンで没した後、長子アレクサンダー・シーボルトが British Museum に売却した日本文献であり、このコレクションはシ

ーボルト第2次滞日時に収集した文献を中心とする。すなわち、1,088タイトル3,441冊のうち43タイトル199冊が第1次滞日時のものであり、1,045タイトル3,242冊が第2次滞日時に収集されたものであるとされている。(文献5)

British Museum の日本語コレクションの中から、シーボルト・コレクションを特定することができたのは最近のことである。

数年前、スウェーデン王立図書館で著名な日本コレクションであるノルデルシェルド(Nordenskiöld)のコレクション再整理中に「蔵書目録」とだけ書いた日本語の目録が発見され、その中に鉛筆書きでロンドンの日本図書館の目録と記入してあるのを見て、British Library のシーボルト・コレクションの目録ではないかとの疑問が生じ、同館から東洋写本刊本部に問合せがあり、照合の結果シーボルト・コレクションであることが判明したという。(文献5)

Rosny, Leon de: Catalogue de la bibliothèque japonaise de Nordenskiöld. 1883.

[当館請求記号 017.1-S864c]

### 3.2. 目録について

1898年、British Museum は日本文献の所蔵目録を編さん刊行した。英国図書館の所蔵するシーボルト・コレクションはこの中に採録されている。この目録は著者別目録として編さんされており、書名索引、主題索引が付されている。しかしコレクション名の記入はないので、シーボルト・コレクションの抽出はできない。前掲のノルデンシェルド・コレクション中の「蔵書目録」との照合によっておおむねは確認できるが、シーボルト・コレクションと特定する決め手は、原資料に押印された1868年7月

22日付の受入印である。

Douglas, Robert Kenneway: Catalogue of Japanese printed books and manuscripts in the Library of the British Museum. London, 1898.

[当館請求記号 Sd-7]

なお、シーボルト・コレクション目録の編さんについて東洋写本刊本部のケネス・ガードナー次長は次のように語っている。

「シーボルト・コレクション目録の編さんは英国図書館の課題であるが、現在は未定である。なお、計画されるとすれば、アーネスト・サトウのコレクションとの優先順位が問題となる。私見であるが、書誌学的にはサトウ・コレクションの方がより重要である」

### 3.3. 管理、保存状況について

英国図書館のシーボルト・コレクションの中には、123点の写本があるが、これらは貴重資料の指定を受け、東洋写本刊本部で所管している。また、多数の地図もあるが、その所管はMap Divisionである。

なお、版本のうちの約3分の1については藤田喜六氏の依頼によって作成したマイクロフィルムのネガを所蔵している由である。ただし、写本については未だマイクロフィルムを作成していないとのことである。

書庫内立入りの許可を得て個別に当たった状況から、英国図書館のコレクションも、オランダ同様、極めて良好である。虫食い、退色、汚損は少ない。革装により製本しており、冊数は、原本とは大幅に変化していることもオランダと同様である。排架は他のコレクション本等と混架されており、外見上シーボルト・コレクションを判

断する手段はない。なお、日本人研究者が訪英し、日本文献の研究を行うことは周知の通りであり、シーボルト・コレクションもその資料源の一つとなっている。

#### 4.1. フランス国立図書館のシーボルト・コレクション——受入経過

シーボルトが第1次滞日時に収集した日本文献の一部は、日本研究の進展のため、ウィーンの帝室図書館、パリの王立図書館に贈ったということが、1845年編さんの上掲目録(2.1.2.参照)のシーボルト自身の緒言(日本語訳)に記されている。フランス国立図書館が所蔵するのは、この同国王立図書館に贈ったとされているものである。

ところが、同館側の記録によると1843年10月1日に、シーボルトから34点89冊の日本文献を、3,000フランで購入したとなっている(同館東洋写本部小杉恵子司書の調査による)。

この件について帰国後シーボルト編さんの目録に当たると、ラテン語による緒言のその部分は次のようになっている。

Exemplaria autem quae superferre, quosque hactenus e Japonia ac alicunde nobis comparavimus libros ac codices manuscriptos, partim in Bibliotheca Imperiali Viennae partim in Bibliotheca Regia Parisiis deposuimus.

(訳文) 日本或いは其の他の国で集めた無数の書籍並に写本の残部は、一部はウキーン帝室図書館に、一部は巴里の王立図書館に贈った。

deposuimus は depono の過去形であり、「委せた」あるいは「委ねた」の意であり、直ちに贈与の意にはならない。

念のため、オランダ政府に寄贈したとされている部分の原文をあげると次のようになっている。

Et nos quoque, quantum potuimus, operam dedimus, collegimusque 525 opera in septem annorum decursu (1823-1830) quos in illis regionibus transegimus, omnique Republicae Batavae cessimus, ut erigatur literarum Japonicarum monumentum.

(訳文) 自分も出来るだけの努力を払って日本に滞在して居った七年の間に(1823~1830)五百二十五冊の書籍を集めて之をオランダ国に寄贈した。

cessimus は cedo の過去形であり、「譲渡した」の意であり、これも寄贈したの意味ではない。

以上で見る限り、フランス王立図書館はシーボルトから購入し受入れたものであることは間違いないようである。

#### 4.2. コレクションの内容

前出小杉司書のご好意により、図書原簿を拝見できたので、その書名をメモし、書庫内で資料と照合した。そのリストは以下の通りである。なお、これらには1843年10月1日付の受入印の押印がある。

函架番号	
297	救荒(本艸)野譜 明 王西楼, 姚可成 京都 白松堂 文化6 (1809) ○
298	古今立華手引草 京都 文化6 (1809)
301	溪斎浮世絵画譜(英泉) 尾張 東壁堂
302	畫本野山草 法橋保国 大坂 文化3 (1806)

- 303 江戸ハルマ(手稿本) 寛政8  
(1796) 10冊 ○
- 305 山海名産図会 木邨孔恭 大坂  
高木遷喬堂 寛政11(1799) ○
- 306 大和本草諸品図 貝原益軒 京都  
洛陽書林伏照軒 正徳5  
(1715)
- 307 物品識名 水谷豊文 尾張 文化  
6(1809)
- 309 懐宝手引節用集大全 京都 文化  
11(1814)
- 314 和漢帝王年表 信陽太宰純(信陽  
定保) 須原屋茂兵衛 宝曆5  
(1755)
- 318 万徳雑書三世相
- 319 榮衛中経図 石坂宗哲 陽州園  
文政8(1825) ○
- 323 倭節用悉改袋増字
- 324 東海道中膝栗毛 十返舎一九 大  
坂 河内屋 文化6(1809)
- 326 藻塩草(蝦夷方言部分) 上原熊次  
郎 寛政4(1792)
- 327 訳準開口新語 岡白駒 大坂 風  
月堂 寛延4(1751)
- 328 百人一首
- 329 女訓玉文庫 大坂 岡田, 小林,  
杉岡 文政9(1826)
- 330 名家画譜 丹羽桃溪 尾張 東壁  
堂 文化12(1815)
- 331 万象即吾師 鶯邨 江戸 和泉屋  
文化14(1817)
- 332 光琳百図 尾形光琳 江戸 文政  
9(1826) ○
- 333 草花略画式 蕙斎 江戸 文政8  
(1825)
- 334 女訓玉文庫 寛政12(1800)
- 335 初心柱立 大坂 寛政6(1794)  
絵本写生獣図画 2冊のうち ○
- 336 蕙斎画 歙形蕙斎 2編 尾張  
○
- 337 一筆画譜 北斎 尾張 文政6

- (1823)
- 338 北溪漫画 尾張 永楽屋 ○
- 339 契情草履打 東西庵南北(柳川重  
信の絵) 文政5(1822)
- 340 和漢三才図会 105巻 大坂 寺  
島良安
- 341 葯(オランダ語辞書) 文化10(18  
13) 13冊
- 342 Bereneer de catalogus van eine  
fraaije verzameling japanis-  
che voorwerfen. (Catalogue  
d'une collection de livre jap-  
onaise) Batavia, 1829.

(1980. 9. 5 調査)

これら同館所蔵のシーボルト・コレクション本についての目録あるいは紹介記事は、事前調査中に見かけていないので今回の調査記録が最初のものかもしれない。同館側でも初めて調査したらしい様子であった。

また、この調査によって確認した31点中ライデン所在の資料と重複するものは9点である。(各記入の末尾に○印を付した)

#### 4.3. 保存状況

保存については、オランダ、イギリスの場合と同様装葉の製本がされ、極めて良好である。ただし、製本時にか、表装を外し、表題紙、奥付のなくなっているものも見られる。虫食いによる破損のないこともオランダ、イギリスと同様である。冊数が当初のものとなっていることも同様である。

#### 5. 調査を終えて

3カ国におけるシーボルト・コレクションの現況について調査した結果は上記の通りであるが、調査に当たって得た若干の所感を記して結びといたしたい。

## 5.1. 保存について

- ① 図書の保存については、温・湿度の低いヨーロッパ中・北部諸国の環境条件は日本におけるよりも遙かに良好である。虫食いによる損傷も殆んど発生しない。
- ② 利用頻度については、日本国内の公共機関所蔵のものに比較し、当然のことながら少ないし、消耗の機会も殆んどない。
- ③ 書庫管理、製本等についても、伝統的な手厚い管理方式に従って処理されており、貴重書もしくはそれに準ずる扱いを受けているものも多い。
- ④ 最近、欧米の大図書館では紙の酸化による消耗問題に悩まされているが、洋紙にくらべ和紙という繊維質の多い上質な紙を使用した江戸時代の図書の材質の条件は遙かに有利であり、長期の保存に耐えられると考えられる。

以上の諸条件からみれば、シーボルト・コレクションを含む日本文献保存上の問題には、何らの危ぐを懐く必要はない。この際、各機関における手厚い管理には心から感謝いたしたい。

## 5.2. 日本人研究者による利用

日本の研究者は2つの立場でシーボルト・コレクションに接する。第1は言うまでもなく、日本の学術・文化に多大の影響を与えたシーボルト自身の研究に当たるものである。第2はシーボルト・コレクション中の学術研究上の価値高い文献を利用して自身のテーマに基づく研究に当るものである。他の外国人によるコレクションの場合、その殆んどが第2の場合であるが、シーボルトの場合はこれと異なる点に特色がある。

その何れであるかを問わず、日本人研究者で在外日本文献利用のため海外を訪れる者は非常に多い。私の短い滞在中でもライデン、ロンドン、パリ(3~5日宛)の各地で10指に余る日本人研究者に出会った。中には累次の訪問によって東洋部門の担当者と密切な関係を結ぶ人々も出ている。このような形での学術面での人的交流はまことに喜ばしいことではあるが、多数の人々に文献利用の機会の提供をはかるべき図書館の立場からは、考えるべき問題があることはいうまでもない。

## 5.3. 海外の日本文献コレクションに対する対応策

今回の調査に関連し、シーボルト・コレクションのほか、西欧諸国にある幾つかの日本文献コレクションに行き当たった。

ブロムホフ・コレクション (出島商館長、オランダ)

フィッシャー・コレクション (出島商館副館長、オランダ)

ツィッツィング・コレクション (オランダ商館長)

ノルデンジェルド・コレクション (地理学者、探検家、スウェーデン)

サトウ・コレクション (外交官、イギリス)

等のコレクションがそれである。これに、ケンペル以降の日本研究家が西欧に持ち帰ったものを加えると、何千、何万かの日本文献が将来されていることが考えられる。

文献の交流は国際文化交流の最も基礎的手段であり、喜ぶべきことは言うまでもない。しかし、ここで考えるべき大きな問題がある。言うまでもなく、世界にただ一本しかない手稿本や、日本国内においてはすでに散佚し、公開の場所で利用する方法の

なくなっている文献が海外機関にのみ存在すること、さらに国内所蔵機関において破損、退色等の起っている文献の善本が海外に多く保存されているということである。

この問題について先ず考えるべきことは、海外の主要図書館等に収蔵されている日本文献の全体像を把握することである。そのための最良の方法は総合目録の編さんである。もっとも、その際、明治以降の文献については除外して考えられるだろうが、それにしてもこのことは言うべくして行うことの難しい問題であり、海外実地調査を含めた経費と労力は膨大なるものとなることが想像される。比較的容易な方法は、何らかの冊子目録のあるコレクションあるいは限定した図書館の目録から孫引によって作成する方法もあるがより簡便な方法としては、主要な冊子目録の総合的書名索引を編さんすることが考えられる。

しかし、最終的目標とすべきことは、日本国内において原典の利用不可能な文献について、マイクロ写真等による複製版を入手することである。もちろん、多大の経費と数多くの労力と長い年月とを要求されることではあるが、何時か実現しなくてはならない課題であろう。

当面の調査課題、シーボルト・コレクションについても、これらの基礎的文献整備の作業の上に立って、より深い調査が進められることが期待されると思う。

#### 文献

- 1 大森実編：「シーボルト関係年表」（緒方富雄等著『シーボルト「日本」の研究と解説』講談社 1977 所収）
- 2 ハンス・ケルナー 著、竹内精一訳：『シーボルト父子伝』創造社 1974
- 3 日独文化協会編：『シーボルト研究』岩波書店 昭和13年
- 4 シーボルト文献 研究室編：『施福多文献聚影』11冊 同研究室 昭和11年（第11冊に解説及び門人文献目録あり）
- 5 Yu-Ying Brown: The Von Siebold collection from Tokugawa Japan. in British Library Journal. Vol. I No. 1, Vol. II, No. 2

（付記 本稿執筆後、今回の調査について当初よりご指導いただいた緒方富雄先生のおすすめにより、1981年1月17日（土）蘭学資料研究会で報告する機会を与えられた。記して感謝の微意とさせていただきます。）

（たなべ・よしたろう 国会分館長）